

厚生労働科学研究費補助金
効果的医療技術の確立推進臨床研究事業

膵癌に対する新しい補助化学療法に関する研究

平成 14 年度 総括研究報告書

主任研究者 小菅智男

平成 15 (2003) 年 4 月

目 次

I.総括研究報告書	
膀胱に対する新しい補助化学療法に関する研究	1
II.研究成果の刊行に関する一覧表	18
III.研究成果の刊行物・別刷	25

厚生労働科学研究費補助金（効果的医療技術の確立推進臨床研究事業）
総括研究報告書

膵癌に対する新しい補助化学療法に関する研究

主任研究者 小菅智男 国立がんセンター中央病院 部長

研究要旨

予後不良な膵癌切除症例に対するゲムシタビンを用いた術後補助化学療法の有用性を検討するために、全国 10 施設による多施設共同無作為化比較試験を計画した。試験の概要は次の通りである。対象：浸潤性膵管癌の肉眼的治癒切除症例。比較条件：術後補助化学療法の有無。化学療法の方法：ゲムシタビン 1000mg/m²を週 1 回 3 週連続で経静脈的に投与し、1 週休止するのを 1 コースとして 3 コース行う。前層別因子：施設、進行度、根治度。主要評価項目：生存期間、無再発期間。副次的評価項目：化学療法に関連した有害事象。平成 13 年度中に研究実施要綱の策定を行い、平成 14 年度は、各施設倫理審査委員会の承認を得たのちに症例の登録を開始した。平成 14 年 3 月 31 日までに 31 例の症例が登録された。

分担研究者

松野正紀	東北大学大学院医学系研究科 教授
今泉俊秀	東京女子医科大学 助教授
関誠	癌研究会附属病院 医員
中尾昭公	名古屋大学大学院医学系研究科 教授
今村正之	京都大学大学院医学研究科 教授
門田守人	大阪大学大学院医学系研究科 教授
田代征記	徳島大学医学部 教授
田中雅夫	九州大学大学院医学研究院 教授
平岡武久	*1熊本大学医学部 助教授
金光敬一郎	*2熊本大学医学部 講師
松山裕	京都大学大学院医学研究科 助教授
上野秀樹	国立がんセンター中央病院 医員

*1平成 14 年 4 月～平成 15 年 1 月

*2平成 15 年 2 月～平成 15 年 3 月

A. 研究目的

膵癌は早期診断の困難な疾患であり、今日でも切除率は低く、また切除された例でも遠隔成績は不良である。膵癌による死亡数は年々増加しており、有効な治療法を確立することは国民的な課題である。これまで、切除可能症例に対しては、手術療法に化学療法や放射線療法などの補助療法を加えた集学的治療が試みられてきた。しかし、膵癌切除例を対象として行われた補助療法の無作為化比較試験は少なく、その結果は一定していない。アメリカでは 1985 年に GITSG による多施設共同無作為化比較試験の結果、外照射と 5-FU による放射線化学療法が膵癌治癒切除例に対する補助療法として有効とされ、以後これが膵癌切除例に対する標準治療とされてきた。しかし、最近、ヨーロッパで 2 つの大規模な国際共同研究が行われ、どちらも放射線化学療法の有効性を確認できなかった。一方、化学療法単独の補助療法に関する多施設共同無作為化比較試験は 1993 年に AMF 療法を用いてノルウェーで行われたものが報告されたのみであり、しかもその結果はあ

いまいなものであった。したがって、現時点では、膵癌の切除例に対して標準とするべき補助療法は確立していないといえる。

一方、切除不能な膵癌に対する化学療法では、近年、塩酸ゲムシタビン（以下ゲムシタビン）が注目を集めている。ゲムシタビンは代謝拮抗剤に分類される抗悪性腫瘍剤であり、細胞内で三リン酸化物に代謝され、DNA 合成を阻害することによって固形がんに対する殺細胞効果を発揮する。米国およびカナダで実施された第Ⅲ相無作為化比較試験では、ゲムシタビンによる症状緩和効果が5-FUより有意に高率であることが示され、また、生存期間の延長に関してもゲムシタビンのほうが優れていると結論付けられた。米国ではこうした成績をもとにして1996年に進行膵癌に対する適応が承認され、本邦でも2001年4月から膵癌に対する適応が認められた。

以上のように、ゲムシタビンは効果ばかりでなく副作用の面でもこれまで標準的に用いられてきたフルオロウラシルよりも優れており、侵襲の大きな膵癌切除手術後に併用する補助化学療法剤として有望な薬剤と考えられる。そこで、本剤を用いた術後補助化学療法の有用性を評価するための臨床試験を計画した。

B. 研究方法

膵癌切除例に対するゲムシタビンを用いた術後補助化学療法の有用性を明らかにするため、肉眼的治癒切除が行われた浸潤性膵管癌の症例で安全性を維持するために設けられた基準を満たしたものを対象として、補助化学療法の有無による治療成績の比較を行う。過去に行われた研究の結果から、単施設での症例集積は困難と予想されるため、多施設共同研究とし、試験の方法は、最も信頼性が高いとされる無作為化比較試験とする。症例の登録は、術後3週から10週の間登録条件を満たされていることを確認した上で行う。治療成績に影響を及ぼす可能性が高い、施設・腫瘍の進行度・手術の

根治度の3要素について偏りが生じないように、これらを前層別因子として動的割付けによる無作為化を行う。主要評価項目は、登録時点からの生存期間および無再発期間とし、補助化学療法による有害事象を副次的評価項目とする。補助化学療法としては、ゲムシタビン1000mg/m²を1週間に一度ずつ3週連続で経静脈的に投与し、1週休止するのを1コースとし、合計で3コース行うこととする。倫理面の配慮として、研究対象者には研究の具体的内容、予想される利益と不利益、研究への参加や同意の撤回に関する自由、人権の擁護、費用の負担などについて詳細に説明した文書を渡した上で口頭による説明を行い、文書による同意を得ることとする。また、それぞれの研究実施施設において倫理審査委員会に研究実施要綱を提出し、その承認を得ることを必須とする。

C. 研究結果

平成13年度は、臨床試験を具体的に進めるための準備として、本研究への参加が可能であった全国の主要な膵癌治療医療機関10施設、臨床統計家、モニタリング委員会から構成される研究組織を整え、上記の研究方法に基づいた具体的な研究実施要綱の策定、および症例登録センターの設置を行った。策定した研究実施要綱は、症例登録を予定する10施設でそれぞれの施設倫理審査委員会に提出し、研究の承認を申請した。

平成14年度は施設倫理審査委員会の承認が得られた施設から順次症例登録を開始した。登録に参加予定の10施設のうち9施設で承認が得られた。1施設のみ承認が得られず、再度、承認申請を行っている。平成14年3月31日までに31例が登録された。これまでのところ試験実施上の問題は生じていない。

D. 考察

本研究では、予定症例数を100例とした。こ

の症例数で検出できるのは 2 年生存率に約 20%以上の差があった場合である。したがって、これより微小な差は検出できないという問題がある。しかし、過去に行われた様々な研究の結果から、これ以上の症例数を集積するのが困難であることは明らかであり、また、膵癌の一般的な予後を考慮した場合に、微小な効果では臨床的な意義が少ないことなどから現実的な値として設定した。ゲムシタビンの投与方法については最も一般的な方法を採用した。投与回数設定については、十分な効果を得るために長期に投与する方法も議論されたが、無効な場合、術後生存期間は短いことが予想されるため、補助療法の期間としては3カ月程度が妥当であろうとの結論に至った。本研究の結果、最終的にゲムシタビンによる補助化学療法の有用性が証明されれば、難治がんの代表的存在である膵癌の切除症例に対して初めて標準的な治療が確立される契機になると考えられる。逆に有用性が証明されなければ、効果の少ない治療を行うことによる患者の不利益と医療経済上の不利益を避けることができる。試験のデザインや倫理的な配慮については、世界的に通用する水準の研究実施要綱と研究組織が完成し、本年度から症例の登録が開始された。全体として研究は比較的順調に進展している。残念なことは、一施設のみではあるが、施設倫理審査委員会の承認を平成 14 年度中に得られなかったことである。これにより、症例の登録期間について多少の修正を要する可能性がある。

E. 結論

多施設共同研究を行う上での問題点が解決され、本年度から症例の登録が開始された。これまでのところ研究は比較的順調に進展している。

F. 健康危険情報

本年度は健康危険に関する情報はない。

G. 研究発表

1. 論文発表

外国語論文

- 1) Yachida S, Kosuge T, et al. Minute pancreatic adenocarcinoma presenting with stenosis of the main pancreatic duct. *Pathol Int*,52:607-611,2002.
- 2) Shimamura T, Kosuge T, et al. Clinicopathological significance of galectin-3 expression in ductal adenocarcinoma of the pancreas. *Clin Cancer Res*,8:2570-2575, 2002.
- 3) Yachida S, Kosuge T, et al. Implications of peritoneal washing cytology in patients with potentially resectable pancreatic cancer. *Brit J Surg*,89:573-578, 2002.
- 4) Shimamura T, Kosuge T, et al. Dysadherin overexpression in pancreatic ductal adenocarcinoma reflects tumor aggressiveness: Relationship to e-cadherin expression. *J Clin Oncol*,21:659-667,2003.
- 5) Oonuma M, Matsuno S, et al. Gene therapy for intraperitoneally disseminated pancreatic cancers by *Escherichia coli* uracil Phosphoribosiltransferase (UPRT) gene mediated by restricted replication-competent adenoviral vectors. *Int J Cancer*,102:51-59,2002.
- 6) Lefter LP, Matsuno S, et al. Suppression of the tumorigenic phenotype by chromosome 18 transfer into pancreatic cancer cell lines. *Gene Chromosome Canc*,27:234-242,2002.
- 7) Duda DG, Matsuno S, et al. Overexpression of the p53-inducible brain-specific angiogenesis inhibitor 1 suppresses efficiently tumour

- angiogenesis. *Birt J Cancer*, 86: 490-496,2002.
- 8) Hoshida T, Matsuno S, et al. Gene therapy for pancreatic cancer using an adenovirus vector encoding soluble flt-1 vascular endothelial growth factor receptor. *Pancreas*,25:111-121,2002.
 - 9) Sunamura M, Matsuno S, et al. Gene therapy for pancreatic cancer based on genetic characterization of the disease. *J HBP Surg*,9:32-38,2002.
 - 10) Ariizumi S, Imaizumi T, et al. Invasive carcinoma of the pancreas derived from intraductal papillary adenocarcinoma without mucin hypersecretion but with changes in the pancreatic duct on pancreatography. *J HBP Surg*,9:637-641,2002.
 - 11) Gulik Tv, Nakao A, et al. Extended resection for pancreatic adenocarcinoma. *HPB*,4:101-103,2002.
 - 12) Tezel E, Nakao A, et al. Characterization of scattered neuroendocrine cells in ductal carcinoma of the pancreas. *Pancreas*, 25:136-141,2002.
 - 13) Hosotani R, Imamura M, et al. Trojan p16 peptide suppresses pancreatic cancer growth and prolongs survival in mice. *Clin Cancer Res*,8:1271-1276, 2002.
 - 14) Higashi T, Imamura M, et al. Relationship between retention index in dual phase ¹⁸F-FDG PET, and hexokinase II and glucose transporter-1 expression in pancreatic cancer. *J Nucl Med*,43:173-180,2002.
 - 15) Tsuji Y, Monden M, et al. Cancer cell contact causes oscillatory and polarized rise of cytoplasmic ionized calcium concentration in human umbilical vein endothelial cells. *Int J Oncol*,21:541-546,2002.
 - 16) Sugita Y, Monden M, et al. Overexpression of β 1, 4N-Acetylgalactosaminyltransferase mRNA as a molecular marker for various types of cancers. *Oncology*, 62:149-156,2002.
 - 17) Sakon M, Monden M, et al. Ischemia-reperfusion injury of the liver with special reference to calcium-dependent mechanisms. *Surg Today*, 32:1-12,2002.
 - 18) Narioka J, Tashiro S, et al. Promotion of bacterial translocation by major liver resection in obstructive jaundice in rats colonised predominantly with indigenous *Escherichia coli*. *J Med Microbiol*,51:687-694,2002.
 - 19) Ikawa K, Tashiro S, et al. Genetic detection of liver micrometastases that are undetectable histologically. *J Surg Res*,106:124-130,2002.
 - 20) Ohtsuka T, Tanaka M, et al. Gastric phase 3 motility after pylorus-preserving pancreatoduodenectomy. *Ann Surg*,235:417-423,2002.
 - 21) Kojima M, Tanaka M, et al. A vanishing pseudocyst in the remnant pancreas after pylorus-preserving pancreatoduodenectomy. *J Gastroenterol*,37:479-482,2002.
 - 22) Ohtsuka T, Tanaka M, et al. Effect of gastrointestinal reconstruction on quality of life and nutritional status after pylorus-preserving pancreatoduodenectomy. *Dig Dis Sci*, 47:1241-1247,2002.
 - 23) Yamaguchi K, Tanaka M, et al.

- Intraductal papillary-mucinous tumor of the pancreas concomitant with ductal carcinoma of the pancreas. *Pancreatology*,2:484-490,2002.
- 24) Ogawa Y, Tanaka M, et al. A prospective pancreatographic study of the prevalence of pancreatic carcinoma in patients with diabetes mellitus. *Cancer*,94:2344-2349,2002.
- 25) Qian L-W, Tanaka M, et al. Radiation-induced increase in invasive potential of human pancreatic cancer cells and its blockade by a matrix metalloproteinase inhibitor, CGS27023. *Clin Cancer Res*,8:1223-1227,2002.
- 26) Maehara N, Tanaka M, et al. Gene transduction of NK4, HGF antagonist, inhibits in vitro invasion and in vivo growth of human pancreatic cancer. *Clin Exp Metastas*,19:417-426,2002.
- 27) Takahata S, Tanaka M, et al. Comparison of recovery of gastric phase III motility and gastric juice output after different types of gastrointestinal reconstruction following pylorus-preserving pancreato-duodenectomy. *J Gastroenterol*,37:596-603,2002.
- 28) Saimura M, Tanaka M, et al. Intraperitoneal injection of adenovirus-mediated NK4 gene suppresses peritoneal dissemination of pancreatic cancer cell line AsPC-1 in nude mice. *Cancer Gene Ther*, 9:799-806,2002.
- 29) Saimura M, Tanaka M, et al. Tumor suppression through angiogenesis inhibition by SUI-2 pancreatic cancer cells genetically engineered to secrete NK4. *Clin Cancer Res*,8:3243-3249, 2002.
- 30) Qian L-W, Tanaka M, et al. Co-cultivation of pancreatic cancer cells with orthotopic tumor-derived fibroblasts: fibroblasts stimulate tumor cell invasion via HGF secretion whereas cancer cells exert a minor regulative effect on fibroblasts HGF production. *Cancer Lett*,190:105-112, 2003.
- 31) Yamaguchi K, Tanaka M, et al. Radiation therapy, bypass operation and celiac plexus block in patients with unresectable locally advanced pancreatic cancer. *Hepato-Gastroenterol*(in press)
- 32) Yamaguchi K, Tanaka M, et al. Total pancreatectomy for intraductal papillary-mucinous tumor of the pancreas: Reappraisal of total pancreatectomy. *Hepato-Gastroenterol* (in press)
- 33) Yamaguchi K, Tanaka M, et al. ERT following IORT Improves survival of patients with resectable pancreatic cancer. *Hepato-Gastroenterol*(in press)
- 34) Ohtsuka T, Tanaka M, et al. Comparison of quality of life after pylorus-preserving pancreatoduodenectomy and whipple resection. *Hepato-Gastroenterol* (in press)
- 35) Matsumoto K, Tanaka M, et al. Pancreatic ductal carcinoma with endocrine differentiation and ossification: Report of a case. *Am J Gastroent*(in press)
- 36) Kanemitsu K, et al. Implication of micrometastases of lymph nodes in patients with extended operation for

- pancreatic cancer. Pancreas(in press)
- 37) Yamaguchi T, Matsuyama Y, et al. Proportional hazards models with random effects to examine centre effects in multicentre cancer clinical trials. Stat Methods Med Res, 11:221-236,2002.
 - 38) Matsuyama Y. Correcting for non-compliance of repeated binary outcomes in randomized clinical trials: randomized analysis approach. Statist Med,21:675-687,2002.
 - 39) Matsuyama Y. Sensitivity analysis for the estimation of rates of change with non-ignorable drop-out: an application to a randomized clinical trial of the vitamin D3. Statist Med, 22:811-827, 2003.
 - 40) Ueno H, et al. Phase II study of uracil-tegafur in patients with metastatic pancreatic cancer. Oncology,62:223-227,2002.
 - 41) Ikeda M, Ueno H, et al. A phase I trial of weekly gemcitabine and concurrent radiotherapy in patients with locally advanced pancreatic cancer. Brit J Cancer,86:1551-1554,2002.
 - 42) Ueno H, et al. Phase I and pharmacokinetic study of 5-fluorouracil administered by 5-day continuous infusion in patients with hepatocellular carcinoma. Cancer Chemoth Pharm,49:155-160,2002.
- 日本語論文
- 1) 小菅智男. 膵全摘術. 幕内雅敏, 木村理編. Knack&Pitfalls 膵脾外科の要点と盲点. 文光堂, 東京, pp120-122, 2002.
 - 2) 小菅智男. 血管合併切除. 幕内雅敏, 木村理編. Knack&Pitfalls 膵脾外科の要点と盲点. 文光堂, 東京, pp123-125, 2002.
 - 3) 小菅智男. 切除適応と術式選択. 小菅智男, 垣添忠生編. 新癌の外科-手術手技シリーズ 6. 膵癌・胆道癌. メジカルビュー社, 東京, pp2-3, 2003.
 - 4) 小菅智男. 後腹膜一括郭清を伴った膵頭十二指腸切除術. 小菅智男, 垣添忠生編. 新癌の外科-手術手技シリーズ 6. 膵癌・胆道癌. メジカルビュー社, 東京, pp4-10, 2003.
 - 5) 小菅智男. 門脈・上腸間膜静脈再建. 小菅智男, 垣添忠生編. 新癌の外科-手術手技シリーズ 6. 膵癌・胆道癌. メジカルビュー社, 東京, pp60-63, 2003.
 - 6) 小菅智男. 門脈カテーテルバイパス法. 小菅智男, 垣添忠生編. 新癌の外科-手術手技シリーズ 6. 膵癌・胆道癌. メジカルビュー社, 東京, pp64-67, 2003.
 - 7) 小菅智男. 術中照射. 小菅智男, 垣添忠生編. 新癌の外科-手術手技シリーズ 6. 膵癌・胆道癌. メジカルビュー社, 東京, pp68-69, 2003.
 - 8) 小菅智男. 膵頭十二指腸切除. 小菅智男, 垣添忠生編. 新癌の外科-手術手技シリーズ 6. 膵癌・胆道癌. メジカルビュー社, 東京, pp111, 2003.
 - 9) 小菅智男. 肝膵同時切除(HPD). 小菅智男, 垣添忠生編. 新癌の外科-手術手技シリーズ 6. 膵癌・胆道癌. メジカルビュー社, 東京, pp112-114, 2003.
 - 10) 松野正紀. 膵癌. 日内会誌, 91:127-130, 2002.
 - 11) 武田和憲, 松野正紀, 他. 膵癌全国登録からみた T 分類、Stage 分類. 胆と膵, 23:125-127, 2002.
 - 12) 砂村眞琴, 松野正紀, 他. 膵癌に対する遺伝子治療法の開発. 癌と化学療法, 29:398-404, 2002.
 - 13) 砂村眞琴, 松野正紀. 癌転移巣形成にお

- ける遺伝子異常の役割. 外科, 64:309-314, 2002.
- 14) 阿部忠義, 松野正紀, 他. 遺伝子診断による膵管内乳頭腫瘍の悪性度評価. 消化器科, 34:248-257, 2002.
 - 15) 阿部忠義, 松野正紀, 他. 老年者における膵癌の特徴と外科治療戦略. 老年消化器病, 14:25-29, 2002.
 - 16) 江川新一, 松野正紀, 他. 膵癌における腫瘍マーカーの臨床的意義. 肝胆膵, 44:829-833, 2002.
 - 17) 阿部忠義, 松野正紀, 他. 膵嚢胞性疾患の概念と分類. 消化器外科, 25:1385-1389, 2002.
 - 18) 松野正紀. 日本膵臓学会膵癌登録 20 年間の総括. 膵臓, 18:101-169, 2003.
 - 19) 原田信比古, 今泉俊秀, 他. 膵頭十二指腸切除術における膵消化管吻合ーステンントを用いない膵管空腸粘膜吻合法. 外科, 64:666-669, 2002.
 - 20) 今泉俊秀, 他. 門脈合併切除を伴う全胃幽門輪温存膵頭十二指腸切除術. 臨外, 57:1105-1112, 2002.
 - 21) 今泉俊秀, 他. 膵癌治療の最前線—外科治療と集学的治療の現況. 今月の治療, 10:89-94, 2002.
 - 22) 羽鳥隆, 今泉俊秀. 膵癌における Clinical Index. 幕内雅敏, 木村 理編. Knack&Pitfalls 膵脾外科の要点と盲点. 文光堂, 東京, pp44-47, 2002.
 - 23) 今泉俊秀. 膵頭部癌に対する拡大膵頭十二指腸切除術. 幕内雅敏, 木村 理編. Knack&Pitfalls 膵脾外科の要点と盲点. 文光堂, 東京, pp106-111, 2002.
 - 24) 今泉俊秀, 他. 膵癌の手術療法. 多賀須幸男, 三田村圭二, 他編. 今日の消化器疾患治療指針. 医学書院, 東京, pp800-803, 2002.
 - 25) 関 誠, 他. 外科病理学的見地からみた膵管内乳頭粘液性腫瘍. 外科, 65:142-150, 2003.
 - 26) 金子哲也, 中尾昭公. 門脈内超音波検査を用いた膵癌進展度診断. 消化器科, 34:449-455, 2002.
 - 27) 杉本博行, 中尾昭公. アンスロンカテーテルを用いた門脈合併切除術. 手術, 57:181-185, 2003.
 - 28) 金子哲也, 中尾昭公. 膵頭部癌に対する門脈内超音波検査による膵外神経叢浸潤の診断. 幕内雅敏, 木村 理編. Knack&Pitfalls 膵脾外科の要点と盲点. 文光堂, 東京, pp153, 2002.
 - 29) 中尾昭公. 膵頭部癌に対する mesenteric approach による上腸間膜動脈周囲リンパ節・神経叢郭清. 幕内雅敏, 木村 理編. Knack&Pitfalls 膵脾外科の要点と盲点. 文光堂, 東京, pp158-159, 2002.
 - 30) 佐々木克哉, 田代征記, 他. 膵頭部膵管内乳頭腫に対し膵頭十二指腸第Ⅱ部切除術を行った 1 例. 四国医誌, 58:61-65, 2002.
 - 31) 佐々木克哉, 田代征記, 他. 膵管非癒合に合併した膵管内乳頭腫の一切除例. 四国医誌, 58:168-173, 2002.
 - 32) 佐々木克哉, 田代征記, 他. 膵体部非浸潤性膵管内乳頭腺癌に対し脾温存膵尾部切除術を施行した 1 例. 四国医誌, 58:178-182, 2002.
 - 33) 田中雅夫. 難治がんに対する挑戦—膵癌の治療戦略. 日外会誌, 103:290-293, 2002.
 - 34) 小川芳明, 田中雅夫, 他. 精査としての ERCP-パルーン ERP と膵液細胞診-. 消化器内視鏡, 14:496-503, 2002.
 - 35) 山口幸二, 田中雅夫, 他. 通常型膵管癌と IPMT の同時/異時性多発の可能性. 胆と膵, 23:229-232, 2002.
 - 36) 平岡武久. 膵頭部癌に対する拡大リンパ節郭清. 幕内雅敏, 木村 理編. Knack&Pitfalls 膵脾外科の要点と盲点.

- 文光堂, 東京, pp146-149, 2002.
- 37) 平岡武久. 膵神経叢全切除術. 幕内雅敏, 木村 理編. Knack&Pitfalls 膵脾外科の要点と盲点. 文光堂, 東京, pp310-313, 2002.
- 38) 佐藤俊哉, 松山 裕. 疫学・臨床研究における因果推論: 因果を探る. 甘利俊一, 竹内啓, 他編. 多変量解析の展開-隠れた構造と因果を推理する. 岩波書店, 東京, pp131-175, 2002.
- 39) 上野秀樹, 他. 膵癌の化学療法. 今月の治療, 10: 44-45, 2002.
2. 学会発表
国際学会
- 1) Sano T, Kosuge T, et al. Solid and cystic tumor of the pancreas with multiple liver metastases. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo, 2002/4.
- 2) Kosuge T. Surgical treatment of pancreatic cancer. The 16th International symposium of foundation for promotion of cancer research, Tokyo, 2002/1.
- 3) Matsuno S, et al. Current status of management of pancreatic cancer in Japan. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo, 2002/4.
- 4) Shimamura H, Matsuno S, et al. Dendritic cell-based immunotherapy combined with radiotherapy against pancreatic cancer. From bench to bed side. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo, 2002/4.
- 5) Matsuno S, et al. Radical resection-Japan: How it is done. Joint meeting of the european pancreatic club and the international association of pancreatology, Heidelberg, 2002/6.
- 6) Sunamura M, Matsuno S, et al. Suppression of malignant potential by chromosome 18 or chromosome 12 transfer in pancreatic cancer cell lines. Joint meeting of the european pancreatic club and the international association of pancreatology, Heidelberg, 2002/6.
- 7) Shimamura H, Matsuno S, et al. Clinical trial of the dendritic cell-based immunotherapy combined with irradiation against pancreatic cancer. Joint meeting of the european pancreatic club and the international association of pancreatology, Heidelberg, 2002/6.
- 8) Lefter LP, Matsuno S, et al. Strongly anti-metastatic activity encoded by chromosome 18 switches to a dominant phenotype of human pancreatic cancer cells. Joint meeting of the european pancreatic club and the international association of pancreatology, Heidelberg, 2002/6.
- 9) Matsuno S. Current status of management of pancreatic cancer in Japan. 2nd Congress of the taiwan pancreatic association, Taipei, 2002/7.
- 10) Hatori T, Imaizumi T, et al. A new clinical staging of pancreatic cancer evaluated by CT-scan preoperatively. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo, 2002/4.
- 11) Harada N, Imaizumi T, et al. Nonstenting procedure in duct-to-mucosa pancreaticojejunostomy for the

- normal pancreas. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo,2002/4.
- 12) Fukuda A, Imaizumi T, et al. The evaluation of the 14 cases of pancreatic cancer associated with pancreatic stones. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo,2002/4.
 - 13) Hatori T, Imaizumi T, et al. Comparison between the disease free time after surgery and the pathological findings in the pancreatic cancer. Joint meeting of the european pancreatic club and the international association of pancreatology. Heidelberg,2002/6.
 - 14) Hayashi K, Imaizumi T, et al. A striking chemotherapy for pancreatic cancer with oralfluoropyrimidine (S-1). 103rd Annual meeting of the american gastroenterological association, San Francisco,2002/5.
 - 15) Takeda S, Nakao A, et al. Adjuvant 5FU liver perfusion chemotherapy is effective in the positive TS and negative DPD patients with stage IV pancreatic cancer. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo,2002/4.
 - 16) Nakayama S, Nakao A, et al. Dihydropyrimidine dehydrogenase expression affects the efficacy of postoperative adjuvant 5-fluorouracil liver perfusion chemotherapy in the patients with advanced pancreatic carcinoma. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo,2002/4.
 - 17) Nakao A. The role of extended resection in pancreatic cancer. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo,2002/4.
 - 18) Inoue S, Nakao A, et al. Segmental pancreatectomy for a patient with intraductal papillary mucinous tumor (IPMT) of the pancreas who previously received total gastrectomy. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo,2002/4.
 - 19) Nakao A. Recent advances in pancreatic cancer surgery. 6th International postgraduate course KKU-IASG jointproject, Thailand, 2003/3.
 - 20) Nakao A. Isolated PpPD combined with portal vein catheter-bypass of the portal vein. 6th International postgraduate course KKU-IASG joint project, Thailand,2003/3.
 - 21) Nakao A. Vascular resection hepatobiliary and pancreatic surgery. 6th International postgraduate course KKU-IASG joint project, Thailand, 2003/3.
 - 22) Imamura M, et al. Murti-center RCT comparing surgery and radio chemotherapy for locally advanced pancreatic cancer. The 16th International symposium of foundation of promotion of cancer research, Tokyo,2003/1.
 - 23) Hayashi N, Monden M, et al. Augmented expression of N-acetylglucosamine β 1, 3galactosyltransferase 5 (β 3GalT5) in pancreatic cancer. AACR 93rd annual meeting,2002
 - 24) Tsujie M, Monden M, et al. Synergistic

- growth inhibitory effect of the peroxisome proliferator-activated receptor gamma and retinoid X receptor alpha in gastroenterological cancer cells. Society of surgical oncology, 55th Annual cancer symposium, 2002.
- 25) Tsujie M., Monden M., et al. Thiazolidinediones inhibit growth of pancreatic cancer cells through activation of peroxisome proliferator-activated receptor gamma/retinoid X receptor alpha. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo, 2002/4.
- 26) Tsujie M., Monden M., et al. Treatment of non-resectable, locally advanced pancreatic cancer with combination of hyperfractionated, accelerated radiotherapy and systemic chemotherapy. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo, 2002/4.
- 27) Tsujie M., Monden M., et al. Combination of hyperfractionated accelerated radiotherapy and systemic chemotherapy for treatment of non-resectable locally advanced pancreatic cancer. 18th UICC international cancer congress (OSLO), 2002
- 28) Tsujie M., Monden M., et al. Activation of peroxisome proliferator-activated/retinoid X receptors inhibit cell growth and induces cell cycle arrest and/or apoptosis in pancreatic cancer cells. 12th International symposium of the Hiroshima cancer seminar, 2002.
- 29) Tsujie M., Monden M., et al. Thiazolidinediones inhibit growth of pancreatic cancer cells through activation of peroxisome proliferator-activated receptor gamma/retinoid X receptor alpha. The 3rd International symposium on cancer research and Therapy, 2002.
- 30) Yamamoto S., Monden M., et al. GalNAc-T3 expression in pancreatic carcinomas. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo, 2002/4.
- 31) Kubota M., Monden M., et al. Blood flow mapping in the human pancreas and pancreatic cancer by the xenon/CT method. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo, 2002/4.
- 32) Nakamori S., Monden M., et al. Genetic lymph node staging in pancreatic cancer. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo, 2002/4.
- 33) Kurita N., Tashiro S., et al. Long-term results of chemoradiation for advanced pancreatic cancer. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo, 2002/4.
- 34) Fujii M., Tashiro S., et al. Arterial infusion chemotherapy for the patient of unresectable pancreatic carcinoma with liver metastasis. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo, 2002/4.
- 35) Saimura M., Tanaka M., et al. Intraperitoneal injection of adenovirus-mediated NK4 gene suppresses peritoneal dissemination of

- pancreatic cancer cell line AsPC-1 in nude mice. American association for cancer research 93rd annual meeting, San Francisco, 2002/4.
- 36) Nakamura K, Tanaka M. et al. A novel in vitro model system simulating in vivo carcinoma tissue. Experimental biology 2002, New Orleans, 2002/4.
- 37) Kuroki H, Tanaka M. et al. New tool for maturation of monocyte-derived dendritic cells (Mo-DCs) streptococcal preparation, OK-432. Experimental biology 2002, New Orleans, 2002/4.
- 38) Yamaguchi K, Tanaka M. et al. Intraoperative and external radiation enhances the survival of patients with pancreatic cancer. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo, 2002/4.
- 39) Ohuchida J, Tanaka M. et al. Effects of preoperative pancreatic function of gastric emptying, body weight and quality of life after pylorus-preserving pancreatoduodenectomy. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo, 2002/4.
- 40) Tanaka M. ERCP and cytology: The only method to detect "in situ" carcinoma of the pancreas. The 16th International symposium of foundation for promotion of cancer research, Tokyo, 2003/1.
- 41) Shimizu S, Tanaka M. et al. Laparoscopic pancreatic surgery: Current indications and surgical results. Society of american gastrointestinal endoscopic surgeons 2003, Los Angeles, 2003/3.
- 42) Kanemitsu K. Hiraoka T. et al. Curative intent resection for cancer of the body of the pancreas. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo, 2002/4.
- 43) Kanemitsu K. Hiraoka T. et al. Implication of resection for stage IV pancreatic cancer. 5th World congress of the international hepato-pancreato-biliary association, Tokyo, 2002/4.
- 44) Matsuyama Y. Sensitivity analysis for the estimation of rates of change with non-ignorable drop-out: An application to a randomized clinical trial of the vitamin D3. XXIst International biometrics conference, Freiburg, 2002/7.
- 45) Ueno H. Chemoradiotherapy for locally advanced pancreatic cancer. The 16th International symposium of foundation for promotion of cancer research, Tokyo, 2003/1.
- 46) Okada S, Ueno H. et al. A phase II and pharmacokinetic trial of S-1 in patients with advanced pancreatic cancer (APC). 38th ASCO, Orland, 2002/5.
- 国内学会
- 1) 小菅智男, 他. 多施設共同無作為化比較試験による膵癌に対する術後補助化学療法の評価. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
- 2) 島田和明, 小菅智男, 他. ts1 膵癌 20 例の臨床病理学的検討. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
- 3) 佐野 力, 小菅智男, 他. 肝胆道癌手術における肝動脈合併切除再建例の検討. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
- 4) 小菅智男. 膵癌の補助化学療法に関する多施設共同無作為化比較試験の困難. 第

- 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
- 5) 星田 徹, 松野正紀, 他. 膵癌に対する soluble VEGF receptor を用いた遺伝子治療の検討. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 6) 砂村真琴, 松野正紀, 他. 膵癌補助療法の現状と未来への展望. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 7) 江川新一, 松野正紀, 他. 膵癌は樹状細胞の pseudomaturation を誘導し, 抗原提示能を抑制する. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 8) 阿部 永, 松野正紀, 他. p53, RB 経路異常を持つ膵癌を AxdAdB-3 は破壊する. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 9) 齋藤雄康, 松野正紀, 他. 制限増殖型アデノウイルス感染による腫瘍血管新生の抑制. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 10) 岡田恭穂, 松野正紀, 他. SEREX 法を用いた膵癌抗原の解析・DNA ミスマッチ修復遺伝子産物 hMSH2, hPMS1 に対する抗体は膵癌患者に一定の割合で存在する. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 11) 乙供 茂, 松野正紀, 他. 制限増殖型 adenovirus と塩酸 gemcitabine を併用した膵癌に対する遺伝子化学治療. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 12) 江川新一, 松野正紀, 他. 膵癌は樹状細胞を利用して宿主の免疫を抑制する. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
 - 13) 土原一生, 松野正紀, 他. 膵癌肝転移に対する術前画像診断: 造影 CT・CTAP・MRI の比較. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
 - 14) 砂村真琴, 松野正紀, 他. 膵癌に対する集学的治療の現状と未来への展望. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
 - 15) Lefter Liviu, 松野正紀, 他. Functional analysis of chromosome 18 in pancreatic cancer. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
 - 16) 白相 悟, 松野正紀, 他. 膵腺房細胞癌にて膵尾側切除後 3 年経過して認められた異時性多発肝転移に肝右三区域切除術を施行した一例. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
 - 17) 今泉俊秀, 他. 膵癌外科手術療法の変遷. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 18) 羽鳥 隆, 今泉俊秀, 他. 膵癌治療成績向上をめざした治療戦略. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 19) 福田 晃, 今泉俊秀, 他. 全胃幽門輪温存膵頭十二指腸切除術後の早期胃内容物滞留予防に関する工夫. 第 27 回日本外科系連合学会学術集会, 岡山, 2002/6.
 - 20) 原田信比古, 今泉俊秀, 他. 正常膵に対する粘膜吻合法による膵管空腸吻合術. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
 - 21) 福田 晃, 今泉俊秀, 他. 膵頭十二指腸切除術後膵腸吻合縫合不全に起因する腹腔内出血時の治療方針. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
 - 22) 羽鳥 隆, 今泉俊秀, 他. 膵癌における術後再発時期と臨床病理学的所見との対比. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
 - 23) 原田信比古, 今泉俊秀, 他. 膵機能温存からみた膵切除術の評価. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
 - 24) 福田 晃, 今泉俊秀, 他. 膵全摘術後 1 年以上経過例の栄養評価と予後に関する検討. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台,

- 2002/9.
- 25) 羽鳥 隆, 今泉俊秀, 他. 膵癌切除例に対する新たな試み. 第 44 回日本消化器病学会大会, 横浜, 2002/10.
 - 26) 林 和彦, 今泉俊秀, 他. TS-1 単独, TS-1 +CDDP 併用による膵癌の化学療法. 第 40 回日本癌治療学会総会, 東京, 2002/10.
 - 27) 羽鳥 隆, 今泉俊秀, 他. 術後免疫療法を用いた膵癌治療戦略. 第 40 回日本癌治療学会総会, 東京, 2002/10.
 - 28) 羽鳥 隆, 今泉俊秀, 他. CT を用いた膵癌の新臨床病期分類 (new clinical stage : new CS) の有用性について. 第 64 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2002/11.
 - 29) 福田 晃, 今泉俊秀, 他. 全胃幽門輪温存膵頭十二指腸切除術術後消化性潰瘍症例の検討. 第 64 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2002/11.
 - 30) 羽鳥 隆, 今泉俊秀, 他. 膵癌切除例に対する免疫療法の試み. 第 64 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2002/11.
 - 31) 井上総一郎, 中尾昭公, 他. 胃全摘術後の膵 IPMT に対する膵分節切除術. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 32) 阪井 満, 中尾昭公, 他. 第 5 版膵癌取扱い規約 (試案) におけるリンパ節群分類の妥当性の検討. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 33) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. TS・DPD を指標とする膵癌術後 5FU 門注療法の適応. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 34) 中山茂樹, 中尾昭公, 他. 膵癌における DPD 発現と術後 5-FU liver perfusion chemotherapy の効果に及ぼす影響. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 35) 初野 剛, 中尾昭公, 他. ¹³C 標識混合中性脂肪負荷呼吸試験による膵外分泌機能・胃排出能評価. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 36) 中尾昭公, 他. 膵低悪性度病変に対する膵頭十二指腸第 II 部切除術 (PHRSD) と全膵十二指腸第 II 部切除術 (TPSD). 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 37) 金子哲也, 中尾昭公, 他. 門脈血管内超音波よりみた膵癌切除適応の評価. 第 88 回日本消化器病学会総会, 旭川, 2002/4.
 - 38) 井上総一郎, 中尾昭公, 他. Gemcitabine にて著明な症状緩和効果を示した進行・再発膵癌の 2 例. 第 88 回日本消化器病学会総会, 旭川, 2002/4.
 - 39) 中尾昭公. 肝胆膵手術における血管合併切除. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
 - 40) 初野 剛, 中尾昭公, 他. 全胃温存膵頭十二指腸後胃排出能・膵内外分泌機能の検討. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
 - 41) 中山茂樹, 中尾昭公, 他. 膵癌における DPD, TS 発現と術後 5-FU liver perfusion chemotherapy の効果に及ぼす影響. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
 - 42) 上村孝法, 中尾昭公, 他. Mismatch ligation assay 法による膵癌患者血漿中の K-ras 変異の検出. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
 - 43) 藤井 努, 中尾昭公, 他. 当科における膵管内乳頭腫瘍・粘液性嚢包腫瘍に対する外科的治療. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
 - 44) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. 進行膵癌術後補助 5FU 門注療法の現況. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
 - 45) 初野 剛, 中尾昭公, 他. 膵頭部腫瘍に対する膵頭十二指腸第 II 部切除術 (PHRSD) の評価. 第 33 回日本膵臓学会大

- 会, 仙台, 2002/9.
- 46) 藤井 努, 中尾昭公, 他. 膵管内乳頭腫瘍・粘液性嚢包腫瘍に対する外科的治療. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
 - 47) 中山茂樹, 中尾昭公, 他. 膵癌における DPD 発現と術後 5-FU liver perfusion chemotherapy の効果に及ぼす影響. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
 - 48) 阪井 満, 中尾昭公, 他. 血清による膵癌の早期診断. 第 61 回日本癌学会総会, 東京, 2002/10.
 - 49) 中山茂樹, 中尾昭公, 他. 当科における膵癌に対する外科的治療戦略. 第 40 回日本癌治療学会総会, 東京, 2002/10.
 - 50) 初野 剛, 中尾昭公, 他. 膵頭十二指腸切除術後の再建術式別による胃排出能・膵内外分泌機能の比較検討について. 第 33 回日本消化吸収学会総会, 横浜, 2002/10.
 - 51) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. 中山茂樹、中尾昭公. 進行膵癌術後補助 5FU 門注療法 の適応. 第 44 回日本消化器病学会大会, 横浜, 2002/10.
 - 52) 土井隆一郎, 今村正之, 他. 膵癌外科治療の問題点と今後の展望. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 53) 辻 昭一郎, 今村正之, 他. 膵癌患者における血中可溶性 Fasligand についての検討. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 54) 伊東大輔, 今村正之, 他. 不死化膵上皮細胞に対する TGF β の作用. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 55) 上 和宏, 今村正之, 他. 膵癌における survivin の発現. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 56) 豊田英治, 今村正之, 他. ヒト膵癌細胞株における cadherin および catenin の発現と N-cadherin 強制発現. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 57) 森 友彦, 今村正之, 他. 膵癌の浸潤・転移における CXCR4 特異的拮抗剤 TN 14003 の効果について. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 58) 李 志剛, 今村正之, 他. Klotho マウス (ヒト老化モデルマウス) における易発癌性の検討. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 59) 増井俊彦, 今村正之, 他. 膵癌におけるアポトーシス抑制因子 Bcl-x1 に対するアンチセンス療法の可能性. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 60) 中嶋早苗, 今村正之, 他. 膵癌におけるカドヘリンの発現と浸潤転移への関与第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 61) 森 章, 今村正之, 他. 癌の難治性病態に対する抗血管新生遺伝子治療. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 62) 楊 為戈, 今村正之, 他. 線維芽細胞の癌指向性: 癌特異的なベクターとしての可能性. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 63) 小泉将之, 今村正之, 他. 組換えアデノウイルスベクターによる PDX-1 の遺伝子導入. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 64) 今村正之. 外科と基礎医学. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
 - 65) 丁 永增, 今村正之, 他. Expression of CCR7 in ESCC: a possible role for tumor lymph node metastasis. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
 - 66) 森 友彦, 今村正之, 他. CXCR4 を介する浸潤転移機序を標的とした膵癌転移抑制剤の開発. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
 - 67) 伊東大輔, 今村正之, 他. 浸潤性膵肝癌および PanIN における RCAS1 の発現. 第

- 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
- 68) 小林裕之, 今村正之, 他. レクチンによる胎生期膵多能幹細胞分離の試み. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
- 69) 上 和宏, 今村正之, 他. 膵癌細胞株における survivin isoforms の発現と放射線による変化. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
- 70) 中嶋早苗, 今村正之, 他. 膵癌におけるカドヘリンの発現と浸潤転移への関与. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
- 71) 豊田英治, 今村正之, 他. N-cadherin 遺伝子導入によるヒト膵癌細胞の形質変化. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
- 72) 増井俊彦, 今村正之, 他. 膵癌における RECK の発現とその浸潤能、予後への関与. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
- 73) 橋本洋右, 今村正之, 他. 膵癌細胞株におけるタイトジャンクション関連蛋白の発現とその意義. 第 61 回日本癌治療学会総会, 東京, 2002/10.
- 74) 久保田勝, 門田守人, 他. Xenon CT による膵腫瘍組織血流量. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
- 75) 山本慎治, 門田守人, 他. 膵臓癌における VCP(p97) の発現の免疫組織学的検討. 第 64 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2002/11.
- 76) 山本慎治, 門田守人, 他. 膵臓癌における GalNAc Transferase-3 の発現の免疫組織学的検討. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
- 77) 辻江正徳, 門田守人, 他. 膵癌細胞株における PPAR γ /RXR α 活性化による増殖抑制とそのメカニズム. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
- 78) 辻江正徳, 門田守人, 他. 膵体尾部癌切除後 2 年 2 ヶ月で膵頭部に出現した腫瘍に対し残膵全摘を施行した一例. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
- 79) 辻江正徳, 門田守人, 他. PPAR γ /RXR α 活性化を介した膵癌細胞株の増殖抑制とそのメカニズム. 第 61 回日本癌学会総会, 東京, 2002/10.
- 80) 辻江正徳, 門田守人, 他. ヒト膵癌細胞株 MiaPaCa-2 移植ヌードマウスモデルを用いた UFT と Gemcitabine 併用化学療法の基礎的検討. 第 40 回日本癌治療学会総会, 東京, 2002/10.
- 81) 中森正二, 門田守人, 他. 膵腫瘍における存在診断としての遺伝子診断の試み. 第 14 回日本内分秘外科学会総会, 2002.
- 82) 中森正二, 門田守人, 他. 膵癌に対する術後補助化学療法—持続肝動注療法の評価. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
- 83) 中森正二, 門田守人, 他. 膵癌切除例に対する術後肝動注療法の評価. 第 61 回日本癌学会総会, 東京, 2002/10.
- 84) 中森正二, 門田守人, 他. 肝転移再発予防を目的とした膵癌切除例に対する術後肝動注療法の評価. 第 64 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2002/11.
- 85) 中野賢二, 田中雅夫, 他. 腹膜播種に対する腫瘍溶解ウイルス療法. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
- 86) 中村雅史, 田中雅夫, 他. APC 遺伝子の異常で引き起こされる染色体不安定性のメカニズム. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
- 87) 椎葉昌史, 田中雅夫, 他. マウス同系胎児膵組織移植モデルにおける膵島の分化・再生の解析. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
- 88) 清水周次, 田中雅夫, 他. 膵臓疾患に対する腹腔鏡下手術の現況: 適応と手術成績. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
- 89) 水元一博, 田中雅夫, 他. 放射線照射と MMP 阻害剤併用による膵癌の増殖・浸潤・

- 転移制御. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
- 90) 沖野秀宣, 田中雅夫, 他. 膵癌術後の局所再発・転移防止のための新しい治療戦略: 光硬化性ゼラチンを Matrix とした Ad-NK4 の輸送と徐放システムの開発. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
- 91) 川本雅彦, 田中雅夫, 他. QOL よりみた PpPD 術後予後因子. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
- 92) 松本耕太郎, 田中雅夫, 他. 高度進行癌に対する免疫監視機構構築療法: Phase II study のための樹状細胞誘導法の改良. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
- 93) 山口幸二, 田中雅夫, 他. 膵管内乳頭腫瘍に併存した膵管癌. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
- 94) 山口幸二, 田中雅夫, 他. 嚢胞性膵腫瘍: 他臓器癌や膵癌との合併の臨床的意義. 第 63 回日本消化器内視鏡学会総会, 甲府, 2002/4
- 95) 水元一博, 田中雅夫, 他. 膵癌治療の新たなハードル: 膵癌は放射線照射によって浸潤能が促進される. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
- 96) 山口幸二, 田中雅夫, 他. 切除膵癌に対する放射線療法: 追加体外放射線照射の有用性. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
- 97) 沖野秀宣, 田中雅夫, 他. 膵癌の集学的治療における新しい治療戦略: 光硬化性ゲルを用いた Ad-NK4 の輸送と徐放システムの開発. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9
- 98) 銭立 武, 田中雅夫, 他. 膵癌細胞浸潤能と線維芽細胞 HGF 産生能の相互作用. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
- 99) 岡部安博, 田中雅夫, 他. 膵周囲動脈出血の 2 例. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
- 100) 銭立 武, 田中雅夫, 他. 膵癌における放射線照射後の c-Met の発現増強と HGF による運動能の促進効果. 第 61 回日本癌学会総会, 東京, 2002/10.
- 101) 豊永敬之, 田中雅夫, 他. 転写因子 stat3 の膵癌における意義. 第 61 回日本癌学会総会, 東京, 2002/10.
- 102) 田中雅夫. 膵癌診断の up-to-date—膵癌早期診断の契機としての IPMT. 第 44 回日本消化器病学会大会, 横浜, 2002/10.
- 103) 山口幸二, 田中雅夫, 他. ts1 浸潤性膵管癌の検討. 第 44 回日本消化器病学会大会, 横浜, 2002/10.
- 104) 山口幸二, 田中雅夫, 他. 切除膵癌に対する放射線療法: 追加体外放射線照射の有用性. 第 64 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2002/11.
- 105) 金光敬一郎, 平岡武久, 他. 膵癌に対する今後の治療戦略. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
- 106) 高森啓史, 金光敬一郎, 平岡武久, 他. Stage IVa 膵癌に対する術前術後動注全身化学療法の安全性と問題点. 第 102 回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2002/4.
- 107) 高森啓史, 金光敬一郎, 平岡武久, 他. 膵癌治療の今後の方向性. 第 57 回日本消化器外科学会総会, 京都, 2002/7.
- 108) 高森啓史, 金光敬一郎, 平岡武久, 他. 累積生存曲線の形状変化が語る膵癌に対する補助化学療法の重要性. 第 33 回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
- 109) 高森啓史, 金光敬一郎, 平岡武久, 他. 切除不能膵癌に対する肝と膵をターゲットとした局所動注と全身化学療法. 第 61 回日本癌学会総会, 東京, 2002/10.
- 110) 嘉田晃子, 松山 裕, 他. 中止・脱落の理由を考慮した IPCW 法による臨床試験デ

一夕の解析. 日本計量生物学会, 東京,
2002/9.

- 111) 上野秀樹, 他. 膵癌の集学的治療. 第 33
回日本膵臓学会大会, 仙台, 2002/9.
- 112) 上野秀樹, 他. 進行膵がんに対する放射
線・化学療法. 第 40 回日本癌治療学会総
会, 東京, 2002/10.

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
小菅智男	切除適応と術式選択	小菅智男, 垣添忠生	新癌の外科-手術手 技シリーズ6. 脾 癌・胆道癌	メジカル ビュー社	東京	2003	2-3
小菅智男	後腹膜一括郭清を伴っ た脾頭十二指腸切除術	小菅智男, 垣添忠生	新癌の外科-手術手 技シリーズ6. 脾 癌・胆道癌	メジカル ビュー社	東京	2003	4-10
小菅智男	門脈・上腸間膜静脈再建	小菅智男, 垣添忠生	新癌の外科-手術手 技シリーズ6. 脾 癌・胆道癌	メジカル ビュー社	東京	2003	60-63
小菅智男	門脈カテーテルパイパ ス法	小菅智男, 垣添忠生	新癌の外科-手術手 技シリーズ6. 脾 癌・胆道癌	メジカル ビュー社	東京	2003	64-67
小菅智男	術中照射	小菅智男, 垣添忠生	新癌の外科-手術手 技シリーズ6. 脾 癌・胆道癌	メジカル ビュー社	東京	2003	68-69
小菅智男	脾頭十二指腸切除	小菅智男, 垣添忠生	新癌の外科-手術手 技シリーズ6. 脾 癌・胆道癌	メジカル ビュー社	東京	2003	
小菅智男	肝脾同時切除 (HPD)	小菅智男, 垣添忠生	新癌の外科-手術手 技シリーズ6. 脾 癌・胆道癌	メジカル ビュー社	東京	2003	112-114
小菅智男	脾全摘術	幕内雅敏, 木村 理	Knack&Pitfalls 脾 脾外科の要点と盲 点	文光堂	東京	2002	120-122
小菅智男	血管合併切除	幕内雅敏, 木村 理	Knack&Pitfalls 脾 脾外科の要点と盲 点	文光堂	東京	2002	123-125
羽鳥隆, 今泉俊秀	脾癌におけるClinical Index	幕内雅敏, 木村 理	Knack&Pitfalls 脾 脾外科の要点と盲 点	文光堂	東京	2002	44-47
今泉俊秀	脾頭部癌に対する拡大 脾頭十二指腸切除術	幕内雅敏, 木村 理	Knack&Pitfalls 脾 脾外科の要点と盲 点	文光堂	東京	2002	106-111
今泉俊秀, 他	脾癌の手術療法	多賀須幸男, 三田村圭二, 他	今日の消化器疾患 治療指針	医学書院	東京	2002	800-803